

図書館員の四季

“図書ヶ島”の五月

大津赤十字病院 七浦 紀子

図書室の担当者となって、早くも4年が過ぎた。放射線部の受付で毎日患者さんと接し、照射伝票を持って各撮影室を走り回っていた私が、にぎやかな外来棟から遠く離れたこの図書室へやって来たのは、爽やかな五月だった。この図書室は、以前病院の敷地内にあった看護学校の建物の1階で、当時、今はない旧館から移動してきたばかりで、多くの単行本や雑誌が所狭しと積み上げられていた。わずかな引き継ぎで右も左もわからず、無気味なほどに静かなこの場所を、一人で守っていかなければならなかった。見渡せば本ばかり……。私は心の中で叫んだ。「ここは“図書ヶ島”だ!」と。時折足音が近づいてくると、わからない事を質問されるのが怖くて、山積みされた本の陰で息をひそめる毎日。大きな不安の中で私は流人のように心細かった。でもやるしかない。来る日も来る日も物言わぬ本を相手に悪戦苦闘した。にぎやかな外来棟を歩いていると、“図書ヶ島”に戻るのが辛くて、涙が出そうになる事もあった。

あれから4年、散乱していた沢山の重たい本たちのお蔭で、私の腕力と精神力はかなり鍛えられたように思う。今はもはや流人ではなく、役人のような心境で、雑誌の無断持ち出しに頭を痛め、図書の返却延滞に苛立つ毎日である。

今年もまた5月がやって来た。窓越しに図書室を見守るように立っている2本の木が、鮮やかな緑の若葉を伸ばして爽やかな風に揺れている。4年の間にこの木もずいぶん逞しくなった。緑が眩しい5月が来る度に、心細かった流人の頃を思い出す。「真剣そのものだったあの頃の初心を忘れてはいけない。この“図書ヶ島”が、実り多い豊かな島になるように、もっともっと努力しなければ!」と、最近の心の緩みに叱咤する今日この頃である。

CD-ROMとネットワーク

高知県立中央病院 橋田 圭介

この頃、自転車を軋ませながら高知市内を駆け巡ることが多くなった。あちらの病院、こちらの大学と文献を求めて走っている。とは言えサイクリングは天気の良い日に限られる。傘をさして乗るのが違法なのはもちろんだが、自転車を買う時にけちって泥除のないものを買ってしまったため、路面が濡れているだけで、背中が悲惨なことになるのだ。うかつなことに泥で汚れることにしばらく気付かなかった。

なぜ、自転車に乗る機会が増えたかと言えば、原因はCD-ROMにある。昨年MEDLINEを導入し、今年は医中誌CD-ROMを入れた。それまで、オンライン検索も入っていなかったのが好評であったが、検索の結果、ほとんどの文献が図書室にないため利用者は相互貸借を希望することが多い。特にパラメディカルの利用が増えたため、看護関係などの文献を求め大学の看護学科や他の病院へと出かけることになった。今後、ますます依頼件数は増加すると思われる。しかし近隣で入手できる文献は限られ、医学以外の情報要求(心理学・社会学など)にも応じられるよう迫られている。そこで、もう少し広い地区でのネットワーク形成、病院図書室だけでなく他の種類の図書館とも協力関係をつくりあげなければならぬと考える。

ここ数年、医学図書館協会中国四国部会にオブザーバーとして出席している。そこで他のオブザーバーと協議し、有志で中国四国地区医療機関図書館のネットワーク形成を進めることになった。相互貸借を主な目的として、簡単な申込みや迅速な文献の提供を目指し、総合目録も作成したいと考えている。地区でご賛同の方がいらっしゃいましたらご連絡ください。